

すぎなみ産

vol.4

2020

令和2年10月発行

快適な日々を生み出す
清掃の匠

世界最新モードを支える杉並の縫製会社
コロナ禍で医療用ガウン造りに奮闘!

一瞬で空気を交える音楽

コロナに克て!
杉並の仕事

すぎなみオススメ飲食大特集

杉並区



最新モードを陰から支え、コロナ禍では医療のために奮起!

杉並が世界に誇る 縫製のプロ「ファッションしらいし」

縫製工場と聞けば、どのような光景を目に浮かべるだろうか?

おそらく若い世代の大半は、アジアをはじめとする海外の工場、
現地の人々がミシンを操作する姿を連想したことだろう。

実際、日本国内の縫製工場は80年代末のバブル期をピークに減少傾向を続けており、
90年代初めに50%だった衣料品の国産比率は2019年に2%*まで低下している。

縫製工場は人間の労働力に依存する“労働集約型産業”の典型で、
人件費の安い海外へと移転が進んできたわけだ。

こうして斜陽業界とみなされる縫製工場だが、

創業当初から杉並区で生産を続けるファッションしらいしの歩みは大きく異なる。

次々と新たな試みに挑戦し、国内外から高く評価されているのだ。

*「日本のアパレル市場と輸入品概況」(日本繊維輸入組合)より



ファッションしらいしの特徴の一つは、手間を惜しまないこと。
布を縫い合わせた縫い代を落
ち着かせる“割リアイロン”とい
う工程では、1か所に6度も手
を入れることもある。細かな手
間、シルエットの綺麗な洋服を
生み出す。洋服を作る設計図“パ
ターン”や材料である生地への
知識と、技術あってこそそのノ
ウハウダ。



品質比較のために作られた2着。右側は襟元が浮き、
ウエストラインがたるみ、袖がねじれている。ファッション
しらいしの技術を注いだ左側は同じデザインでも綻び
はなく、美しいシルエットが保たれている。



ベテランと若手、CADでの設計と丁寧な手作業など、多様な技術が組み合わせる。



天井近くまで積まれた不織布ロール。医療用ガウンの材料となる。



1階の縫製工場。普段はアイロンの
ボイラーで熱気がこもる。現在は新
型コロナ禍を受け、アイロンは天井
のパイプの上に置かれている。



工程ごとの作業時間をストップ
ウォッチで計るのは、品質と価値向
上への追求心から。

現場からの悲鳴に、総力体制で医療用ガウンを量産 一方で、「お受験服」の 人気ブランドという別の顔も!

手短かに説明すれば、ファッションらしい縫製工場を運営する会社だ。しかし、この会社をありきたりの言葉で表現するのは大きな間違いだろう。「アパレルメーカーから委託されて服を仕立てる」という受け身の姿勢ではなく、「自分たちで仕事を創り出せる会社になりたい」との思いで取り組んできた結果、高い支持を集める自社ブランドを確立。そして、世界的なデザイナーからも厚い信頼を獲得。さらに、コロナ禍では医療現場を支援するために立ち上がった。



代表取締役の白石正裕さん。

新型コロナ最前線の現場で、 医療用ガウンの不足が深刻化

今回の特集でクローズアップするファッションらしいは業界内でも非常にユニークな存在で、様々な切り口で語ることができる。まず、直近のエピソードから紹介しよう。

オリンピックイヤーとなるはずだった2020年を迎えた直後は、まだ“対岸の火事”だった新型コロナウイルス騒動。だが、3月に入って日本国内でも感染者数が急増し、4月7日には政府が緊急事態宣言を発したことは記憶に新しい。感染が拡大する中、最前線の医療現場ではマスクや作業着などの不足が深刻化した。そこで、政府は各方面で調達を模索。中小の縫製業者が所属する日本アパレルソーイング工業組合連合会（アパ工連）にも、3月半ばに経産省から「医療用ガウンを縫えないか？」との打診があった。

当時アパ工連の副会長を務めていたのがファッションらしい代表取締役の白石正裕さんだ。アパ工連では素材やパターン、生産工程などを検証したうえで、コストや数量、納期を記した書類を4月上旬に提出。ところが、4月の人事異動の時期と重なったこともあってか、書類が経産省を経て厚労省での承認を終えたのは4月20日だったという。

政府の承認から納期までの タイムリミットはわずか10日弱

求められた納期は4月末で、「正式決定を待っている間に合わない」と判断した白石さんは、先駆けて素材の確保に奔走し、承認と同時に量産できる体制を固めた。そして、4月末までに4万5000着の医療用ガウンを納入。アパ工連に加盟する全国約150の縫製工場が連携し、9月末までには累

計140万着を医療現場に届けた。その際に高いハードルとなったのは、国への納入における厳格な規定だ。

「医療用ガウンは初めて手掛けるだけに、どんなペースでどれだけの枚数を生産できるのか、まったく見当もつきませんでした。にもかかわらず、政府に提出した書類に記載した数字と寸分の狂いもない生産枚数を要求されたのです」

たとえ実際の医療現場では当初の計画枚数を超える医療用ガウンを求めていたとしても、余剰生産分を納入するには、新たに書類を作成して承認を受ける必要がある。そんな時間的余裕がない局面だったことは、誰もが容易に想像できるだろう。アパ工連では、余剰生産が発生した場合は医療機関に寄贈するとの方針を固めて量産を急いだ。

生産の承認を受けた4月20日以降、ファッションらしいの工場内は戦場と化した。医療用ガウンの量産に対応するため、アイロンやミシンの配置を大幅変更し、社内が一丸となって縫製作業に明け暮れた。白石さんは苦笑する。

「求められていたのはスピードで、ひたすら同じ作業を繰り返す体力勝負となりました。これまで当社が培ってきた技術を生かすとか、そういった要素は皆無でしたね」



総力体制で仕上げた医療用ガウン。写真右のガウンには白石オリジナル布地を用い、脇には通気加工を施す。

口コミだけで飛ぶように売れる 自社ブランドの「お受験服」

言うまでもなく、医療用ガウンの製造はファッションらしいしにとって、本業のビジネスではない。政府から話がある前から白石さんは、工場周辺の医療機関などが疲弊しているのを見て、何らかの力になりたいと考えていた。その思いが医療用ガウンで結実したわけだ。では、ファッションらしいの技術を結集させた本業とは何か？ その一つは、「ヌーヴ コンフィニ」という自社ブランドである。

同ブランドはわが子の小学校受験を控える女性から、絶大な支持を獲得している。受験に付き添う際に母親が身にまとう「お受験服」で、ファッションらしいが2006年に世に送り出した。以来、口コミだけで年間1000着以上もコンスタントに売れているという。インスタグラムのようなSNSも、つい最近まで活用していなかったそうだ。

人気の理由について触れる前に、自社ブランドの「お受験服」を開発した経緯を説明しておこう。その発端は、白石さんが会社を興した頃まで遡る。

「修行先で縫製を学んだ私は、1986年に独立・開業しました。当初は私一人で修業先からの外注を請け負っていましたが、約2年後に現在の場所で縫製工場を創業しています」

ちょうどバブル景気が拡大している頃の創業だったが、その後に日本経済は「失われた20年」と呼ばれる長期低迷期を迎え、多くの縫製工場が淘汰されていった。

逆境下で生き残りを賭け、 自主企画商品の開発に挑む

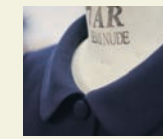
「自分たちで仕事を創り出せる会社にならなければ生き残れないと思い、2000年頃から自主企画のオリジナル商品に取り組み始めました。そして、百貨店とセレクトショップに的を絞って売り込みを行ったのですが、品質は評価されるものの、取り扱ってもらうことは叶いませんでした」

以後も繰り返し営業活動を行ったものの、バイヤーたちが首を縦に振ることはなかった。ついに白石さんの口からは、次のような本音の音が漏れてしまう。

「だったら、あなたたちが求めている服を作ります！」

すると、意外にも百貨店側は「渡りに船」のような反応を示し、具体的に依頼したのが「お受験服」だった。

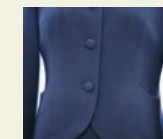
「子どもに同伴して受験の面接に臨むお母さんたちが着る服ですから、立ち姿はもちろん、座った姿勢でも美しいシルエットを保つことが求められます。しかも、長時間にわ



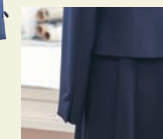
“クセ取り”によって襟が自然なカーブを描き、胸元のラインを美しく見せる。



しゃがんで小さな子どもと向き合うとき、背中に不自然なシワがでない。



細身のシルエットでも窮屈でないのは、ゆとりを保つ立体裁断の成せる技。



“クセ取り”の効果が一目瞭然なのが袖のラインで、既製服のようによれにくい。

たって着用するので、シルエットだけを重視して窮屈になってしまうのも禁物。自主企画に挑戦後はずっとそういった服作りを追求しており、当社が得意とするテーマでした」

美しいシルエットとともに 抜群の“着心地”を徹底追求

素材の調達に遅れが生じたことで百貨店のカタログ掲載に間に合わなかったが、それでも店先に品物が並ぶようになると、飛ぶように売れていったという。

「別の服を買おうと思って来店したのに、試着してみるとピンとこなかったというお客様が当社の服を選ぶケースが多かったようです。販売店で『こちらもお試しになってみませんか?』と勧められて当社の服を試着し、すっかり気に入って買い求めたというわけなんです」

試着すれば気に入ることを、白石さんは確信していた。「結局、大手アパレルの既製服と当社の商品との間で大きく異なっていたのは“着心地”です。通常、大手から委託を受けての縫製ではコストなどの関係から、手のかかる細かな工程を省略します。しかし、当社では縫製前にアイロンで生地を丸みをつけておく“クセ取り”や、体にフィットしやすいように布をつまみながら縫う“ダーツ処理”などといった作業に、あえて手間をかけていました。なぜなら、そういった工程にこだわることで服が立体的に仕上がり、格段に“着心地”がよくなるからです」

自主企画商品に挑みつつ、海外進出も視野に ついには世界的デザイナーのサポートを任される

世界的に著名なデザイナーの 縫製チームも任される

手間を惜しまないこだわりが結実し、仕上がりの美しさと“着心地”を兼ね備えた「お受験服」で大成功を収めたファッションらしいのだが、白石さんはこう指摘する。

「当社が特別なのではなく、一定以上の年齢に達している職人なら知っていて当然の技術ばかりです。しかしながら、コストを抑えることが大前提の委託業務では、そういった手間のかかる工程を省かざるをえないのです」

工程を簡略化した縫製が一般化することにより、次の世代に技術がきちんと伝承されていかないのも大きな問題だ。その意味でも、若い技術者を多数雇用し、彼らに本来の縫製技術をしっかりと学ばせているファッションらしいの社会貢献度は高いと言える。実は、同社のこうしたこだわりがグローバルにも高く評価されている。世界的なファッションデザイナーであるトム・ブラウンの縫製チームを任せ、ニューヨークやパリで開催されるコレクションのサポートを行っているのだ。

「現地に当社の従業員を派遣しており、縫い見本の作成から行っています。複雑な組み立てが必要な作品になると、コレクション会場のバックステージで最終的に組み立て、モデルに着せてランウェイが終わるまで見届けます。繁忙期には、社員のねぎらいも兼ねて僕自身も海外へ何度も赴いています。こうしてコレクションをサポートすることで、トム・ブラウンがデザインした作品の一部の量産を杉並の縫製工場を受注しています」



左の写真は、ジャケットやシャツを重ね着しているように見えるが、1着の洋服。ボタンの一つひとつも、よく見ると糸を縫うことで模様を作っている。右の写真は裏地。細かなミシン作業が見てとれる。



写真の顔の模様は、布を貼り付けているでも、パッチワークでもなく、何枚もの布をそれぞれ中面からミシンで縫って描いている。独創的なカーブはミシンでなぞるにも高い技術を要するが、パズルがはまったように違和感がない。世界的デザイナーをして「あなた方無しではランウェイ(ファッションショー)が上手くいかない」とまで言わしめた技術だ。

自主企画商品への挑戦を 始めた頃から海外進出も模索

後に「お受験服」の成功につながった自主企画のオリジナル商品の開発は2000年頃からスタートしたと前述したが、実は海外への進出もその直後からのチャレンジだった。

「初めて訪米したのは2003年で、誘われて展示会に参加したところ、日本では取り合ってもらえなかった自社企画品が現地のバイヤーに好評でした。ただ、当社が得意とするのは技術で、販売は不得手です。そこで、技術で勝負することを前提として、改めて2009年にニューヨーク進出を図りました。当初は現地の縫製工場へ当社の従業員を派遣し、外注を請け負う形式で仕事を開拓していきました」

こうした地道な努力と、ファッションらしいしがこだわり続けてきた技術に、かのトム・ブラウンが目撃したわけである。彼のアトリエは、中央にファッションらしいの縫製チームを配し、両脇をメンズ、レディースのデザイナー陣が囲む陣形になっている。「縫製チームは、私の仕事場の真ん中にいてもらいたい」とのブラウンの言葉を具現化した格好だ。ファッションらしいしが極めて重要なパートナーだと位置づけられている証しとも言えよう。会社としての規模は中小であっても、世界最新モードの現場で、杉並の会社が著名デザイナーと対等に渡り合っているのだ。

社員に聞きました

社員の顔は、会社の顔。実際に働いている方に、働き方や仕事のやりがいなどを聞いてみました。

御社の良いところって何ですか？



入社5年目
岡村景奈さん



入社4年目
温田千裕さん

普段はなかなか減らないミシン糸(3000m)も、医療用ガウンは週1本を使い切り、芯が山になる。



が良かったですね。

——徹底的に変わったのですか。

岡村：社内体制も、それまでは4～5人ずつの班に分かれていましたが、関係なく、皆が同じ仕事をしています。そのことで、皆で会話することが増えました。上下関係なく意見を出し合って、工夫をしています。

印象的だった海外の仕事

——お2人とも海外の仕事に携わったと聞いています。

岡村：2018年の夏、ニューヨーク・コレクションのときに初めて行きました。同じときに約1カ月半。

温田：大変でしたね(笑)。作るの洋服というより衣装みたいなもので、すごく重たいし、布も厚い。

——コミュニケーションに不安はありませんでしたか。

岡村：不安でした。英語は全然しゃべれないので。

温田：英語が話せる先輩を通じて、コミュニケーションをとっていました。

岡村：最終日はその先輩がパリ・コレクションの仕事で離れてしまい、私たち2人だったのでスマートフォンで翻訳しながら。でも、単語が分かれば、相手が何を言いたいかは分かりましたし、言葉の壁はどうにかなりました。

温田：どうにかするしかないですね。

——今後の目標は何でしょうか。

岡村：だいたい仕事は全工程を教わりましたが、肩パットの付け方など、まだ苦手なこともあります。それらを克服して胸を張って1着縫えるようにしたいです。

温田：ニューヨークへ行くなどすると、作るアイテムも変わります。対応できる能力を身に付けて、また海外の場へも行けるチャンスをつかんでいきたいです。

新体制で新商品を縫い始める

——医療用ガウンを作り始めて、変わったことは。

岡村：アイロンやミシンの配置から、何もかも変わった感じがします。

温田：作り方も、医療用ガウンは同じ作業を繰り返して、組み立てていく感覚。スピード感を持って体を動かすので、体調管理の大変さがありました。ですが、私たちより何倍も大変な人から必要とされて、その役に立っているというやり

■ファッションらしいの歩み

- 1988(昭和63)年 有限会社ファッションらしい設立
- 2003(平成15)年 アメリカ(ニューヨーク)の展示会に参加
- 2006(平成18)年 お受験服「ヌーヴ コンフィニ」発売開始
- 2009(平成21)年 ニューヨークからの受注開始
- 2017(平成29)年 秋田県大館市の縫製工場を開設
- 2020(令和2)年 医療用ガウンの生産開始

■企業情報

- 会社名: 有限会社ファッションらしい
- 所在地: 〒166-0014 杉並区松の木3-16-12
- 代表: 白石正裕
- 設立: 1988年
- 事業内容: 縫製加工、販売
- TEL: 03-3313-1185(代)
- http://www.ifashion.co.jp/



日々が快適に流れていくのは普通ではないことを、また知らされたような年だったかもしれない。杉並にも、これまでと違う対応をとらざるを得なかったり、営業自体が難しくなった仕事があふれています。苦境にあっても日常生活を能動的に流していく2社を紹介します。

株式会社フォーレスト (かぶしがいいしゃふおーれすと)

杉並の地域に生き続ける プロの清掃技術とコミュニケーション

ビルの清掃場所は入口や廊下、ゴミ捨て場など多岐にわたる。雨風など天候にも左右され臨機応変な対応が求められる。

床洗浄後の汚水はウェットバキュームクリーナーで吸い取るなど、各種の専門用具を駆使する。



前列右から
滝沢博さん
鈴木麗夢さん
渡部絵理さん
後列右から
濱田美里さん
中橋里奈さん
中ノ瀬雄城さん
荻窪駅前の青梅街道沿いのオフィスは、眼下に通る神輿などから季節を感じられるという。

「創業以来31年、地元密着の会社です」と話す常務取締役の滝沢博さん。言葉どおり、ランドマークであるタウンセブン、荻窪の大半の金融機関、さらに歯科医院、オフィスやマンションなど、区内中心に300物件の清掃を手掛ける。銀行のバックヤードなど、外部を容易に立ち入らせない場所へ入って日常的な清掃を行えるのは、信頼の積み重ねによるものだ。

スタッフは10代から80代まで110名超。「誰が見ても綺麗」というレベルの清掃と、日頃の挨拶などのコミュニケーションを重視する姿勢がお客様に喜ばれている。

日常清掃を担当する渡部絵理さんは「お客様から直接『ありがとう』と言われることが嬉しく、大きなやりがい」と話す。女性ならではの視点で、目立つ部分だけでなく、ドアノブ、扉の上、部屋の隅など細かな部分にも目を配る。

フォーレストでは、コロナ禍により、その目配りの範囲が広

- 会社名:株式会社フォーレスト
- 所在地:〒167-0043杉並区上荻1-16-14 武蔵館ビル7F
- 代表:宇田川紀通
- 設立:1989年
- 事業内容:ビルメンテナンス業、ビル管理業
- TEL.03-5397-0681
- <http://www.forest-cdt.co.jp/>



西荻窪CLOPCLOP (にしおぎくぼくらつぷくらつぷ)

ミュージシャンとの支え合いで約30年 日常に溶け込むライブハウス



壁には出演してきたミュージシャンたちの写真やメッセージなど。

バー営業も行う。YouTubeでは普段、提供もするメニューを実際に作ってみせたりもする。



店内には周年ごとに作られてきたポスターなども。2021年は開業30周年。山本さん自身、杉並に35年以上住む。



アルコール液や、お客様用フェイスシールドも常備。オリジナルデザインのマスクも販売。受注生産による、がま口型もある。

西荻窪の神明通りに面したマンションの前に、ソウルフルな緑色の看板がある。すぐ裏の、地下へ続く階段がライブハウス、西荻窪CLOPCLOPの入り口。ジャズ演奏が多いが、ジャンルは限定されておらず、ロックということもある。

「演奏が始まった途端、直前までのリラックスした空気が、ピリッと変わることがあります」と店主の山本貴也さん。楽器が空気を物理的に震わせる以上の変化が、緊張と高揚を生む。「吹奏楽をやっている学生が親に連れられて来た際は、『なぜ楽譜1枚で演奏できるの?』と驚いていました」。アドリブの多いジャズ演奏を、初めて目の当たりにしたのだという。

これらは演奏の場に居合わせるからこそその体験だろう。

その提供が、新型コロナ禍で難しくなった。西荻窪CLOPCLOPも2か月間、休業せざるを得なかった。

この逆風に、店として新たな取り組みを打ち出した。5月か

- 店名:西荻窪CLOPCLOP
- 所在地:〒167-0054 杉並区松庵3-39-11 B1
- 店主:山本貴也
- 設立:1991年
- 事業内容:ライブハウス、バー
- TEL.03-5370-2381
- 営業時間:19:00~22:00 通常時19:00~25:00まで
- 定休日:火曜日(不定)
- <http://www.clopclop.jp/>



らYouTubeで、料理と演奏のオリジナルコラボ動画などを配信。また、オリジナル・レーベルもスタートさせた。配信限定音源などを販売している。

さらに、縁あるミュージシャンの呼びかけによりクラウドファンディング「西荻窪CLOPCLOP支援プロジェクト」が立ち上げられ、261人の支援により約177万円が集まった。

「本当にありがたい。けれど、これからですね」と山本さん。時短営業や客席の間引きは続き、都外からのお客様も、演奏していたミュージシャンたちも完全に戻ってはいない。

先のYouTubeは、自宅で音楽や他の一芸を練習することが増えたミュージシャンの発表・宣伝の場、という一面もあるという。それは遊び心くすぐる仕掛けであり、何よりミュージシャンへの支援でもある。ヘッドフォンでは再現できない音楽の醍醐味を残し続けようと、追求は終わらない。

すぎなみ オススメ飲食 大特集

「新しい生活様式」で、これまでにない対応が求められても、一層のおいしさと喜びを提供してくれている飲食店の皆様。杉並区の個性あるお店から、そのごく一部を紹介します。

多彩なメニューで老若男女に支持される住宅街のベトナム料理店 **ベトナム食堂cafeシクロ**



やはり、一番人気はベトナム料理の基本である鶏フォー(750円)。ランチでは生春巻き、揚げ春巻き、サラダ、スープ、杏仁豆腐まで付いたセットが1000円とお手頃。

ホーチミンの一流ホテルで腕を振ったシェフによるフォーや生春巻き、コムガー(ベトナム風チキンライス)、パインセオなどの本格ベトナム料理を堪能できる店。「住宅街という場所柄か、エスニック好きの若者だけでなく、子どもからシニアまで幅広い層がいらっやいます」とは店主の平山正信さん。「かつて新宿御苑にあった伝説の名店のメニューを再現するためにこの店を開いた」と店主が熱く語る名物のシクロカレー(800円)も見逃せない。消毒液などのコロナ対策も万全。

- 所在地:〒168-0065 杉並区浜田山 2-18-1
- TEL.03-5317-5566
- 営業時間:
 - 11:30~15:00(ランチ)
 - 17:30~23:00(ディナー)
- 定休日: 年中無休



堀之内妙法寺の名物「揚げまんじゅう」と新名物「手打ちそば」 **清水屋**



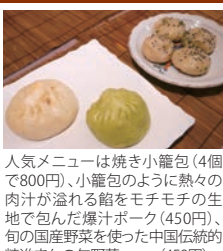
2代目おかみの山田重子さん(左)と3代目のひろみさん(右)。重子さんは堀ノ内を盛り上げる「千日紅市プロジェクト」に主体的に関わるなど地域に貢献する。

1940年から3代にわたり妙法寺門前で営業してきた清水屋。2代目が始めた揚げまんじゅうが参拝客などに親しまれ、3代目が始めた手打ちそばも好評。そばは国産特上粉を使った細打ち。「良い材料を使い、いかにお客様に喜んでもらうかが大事」と3代目店主、山田ひろみさん。お客様の声を聞きながら喜ばれる味を追求する。現在、店内に置くパーテーションは新型コロナ禍を受け、手作り。時短営業や感染予防ポリシー制定、オリジナルの抗菌マスクホルダーの用意などの対策をとっている。

- 所在地:〒166-0013 杉並区堀ノ内 3-48-3
- TEL.03-3311-0725
- 営業時間: 11:00~15:00
- 通常時11:00~17:00 (火曜のみ15:00まで。17:00以降は予約のみ)
- (いずれもそば売切次第終了)
- 定休日: 水曜日



著名な料理研究家による無添加の本格的点心を家で満喫できる **小薇点心(シャウウェイテンシン)**



人気メニューは焼き小籠包(4個で800円)、小籠包のように熟々の肉汁が溢れる餡をモチモチの生地で包んだ爆汁ポーク(450円)、旬の国産野菜を使った中国伝統的精進まん(旬野菜vegan 450円)。

人気料理研究家として数々の著書を出し、2019年8月大連で開催の中国料理世界大会で日本チームを団体銀賞、魚料理部門金賞獲得に導いた小薇さんが2020年6月に開業。コロナ流行に伴う世の中の変化を受け、「無添加の本格的な点心をご家庭で楽しんでほしい」との思いから、テイクアウトが中心。「私にとってラボのような店で、通販でも提供するなど、新たな試みに挑戦したい」と小薇さん。店内飲食は、感染予防で総客数10人に制限。ランチは土日のみ、夜はコース料理(要予約)。

- 所在地:〒166-0012 杉並区和田1-17-2
- TEL.03-6273-0399
- 営業時間: ●11:30~18:00頃(テイクアウト・売切次第終了) ●17:30~21:30(ディナー・当日14:00までに要予約)
- ※土日のみ11:30~15:00まで
- ランチも取り扱う
- 定休日: 月曜日、水曜日



大将の腕前と人柄に惹かれてリピーター続出の地元密着型居酒屋 **地魚 食彩 べたなぎ**



イチオシは大将のお任せお造り五点盛(1500円)。写真右下のクロムツは店主の釣果で、口に含んだ途端に旨味がほとばしる。握りや巻物などの寿司もメニューに。

大将の河内昌彦さんが大の釣り好きなお店もあって、刺身などの魚介料理がイチオシの店。とはいえ、家族ぐるみで来店するケースも多いので、肉料理やピザまで幅広いメニューを取り揃える。「10年前の開店初日、幼児連れのご夫婦が最初のお客様となりましたが、お嬢さんが中学生になった今も家族で通っていただいています」(大将)。大将は毎週欠かさず漁に出て、その釣果がメニューに並ぶ日も。彼の料理の腕前と人柄に惚れ、足繁く通う常連も多い。もちろん、一見さんも大歓迎。飛沫防止シートも、常連客の業者が手掛けた特注品。

- 所在地:〒167-0053 杉並区西荻南 1-23-11
- TEL.03-5941-9871
- 営業時間:
 - 平日・土曜は18:00~23:00
 - 日曜は17:00~23:00
- 定休日: 木曜日、第1・3水曜日



西荻窪駅から徒歩2分、豆で選べる豆腐屋 **まめなとうふ店**



勤めていた豆腐店で意気投合して開業に至った堀井さん(左)と桑原さん(右)。油揚げやいなりなど、大豆を使ったラトウイユなどの総菜も販売している。

豆腐に用いるのは、国産在来種の大豆と天然にがり。在来種とは、特定地域で昔から育てられてきた品種で、広く流通されるものより際立つ個性が特徴だ。「豆によって濃度・粘度が違い、味が違う」と豆腐作りを担当する堀井尚子さん。新型コロナ禍で、ランチ営業は休止。開業2年目の逆風にも、食卓の一品にテイクアウトをしていくお客様は多数。「お客様も町の方も優しく、育ててもらっているよう」と共に営む桑原有子さん。期待に応えるためにも、まめまめしく、丁寧に作り続けている。

- 所在地:〒167-0054 杉並区松庵 3-38-20
- TEL.03-5941-7815
- 営業時間: ●12:00~18:00
- 通常時12:00~19:00
- ランチ15:00まで(休止中)
- (いずれも豆腐売切次第終了)
- 定休日: 月・木・日曜日



煎茶やあんこのスイーツで心身休まる日本茶カフェ **Chatoan(茶とあん)**



人気の煎茶は甘みが濃い鹿児島県産「知覧」。夏は氷水出しも人気があるという。お茶菓子付き。1煎、2煎…味わいの変化をゆっくりと楽しみたい。

「コンセプトの一つは、お客様の好みでのカスタマイズ」と話す店主の増田玲子さん。常時約6種から選べる煎茶は、好みの急須で淹れてもらえる。あんこは農業などを使っていない小豆から甘さの違う2種を炊き、作り置きはしていない。緊急事態宣言時はテイクアウト営業を行った。自宅で、自己流あんトーストを楽しんだお客様もいたのだとか。「煎茶は敷居が高いと思っていた方が来てくださり新しい出会いがありました」。飾らず気軽にゆっくりと。好みの楽しみを見つけてみたいカフェだ。

- 所在地:〒166-0001 杉並区阿佐谷北1-21-28
- TEL.03-6265-5993
- 営業時間: 10:00~19:00
- 定休日: 月曜日(祝祭日の場合は翌日)



杉並区産業振興センター

〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F
TEL.03-5347-9077(就労・経営支援係)

杉並区内産業のさらなる発展を図るため、区内産業三団体(東京商工会議所杉並支部、杉並区商店会連合会、杉並産業協会)と同じフロアに設置した区の産業振興部門です。それぞれの団体と連携しながら、商店街や中小企業の支援、観光・アニメ事業の推進、都市農業の振興など、区内産業の活性化に向けた取り組みを行っています。

■主な取扱業務

- 中小企業資金の融資あっせん、商工相談
- 就労支援、創業支援
- 商店街の各種支援事業
- 観光事業の推進、アニメの振興
- 特定商業施設に関する届出
- 都市農業の振興、区民農園の管理
- 中小企業勤労者福祉事業

すぎなみ産 vol.4 令和2年10月発行
編集・発行: 杉並区産業振興センター
〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F
TEL.03-5347-9077

登録印刷番号
02-0050

杉並産業協会

〒167-0043 杉並区上荻1-2-1 Daiwa荻窪タワー2F
TEL.03-3220-1231

杉並区内の法人および個人を中心とした事業主で組織運営されている唯一の産業団体です。労働保険事務組合として労働保険の取り扱いも行っています。会員企業には労働保険事務組合への加入の他にも従業員福利厚生のための健康診断、レクリエーションの企画や事業主の皆様には優良工場見学、講演会、賀詞交歓会等の開催などを行っています。

■主な取扱業務

- 関係官庁に対する届出書類の記入代行・指導
- 労働保険事務組合の運営
- 講演会・交流会の開催
- 団体への表彰者の推薦
- 会員企業に勤める従業員の方への福利厚生事業
- 会報の発行
- 会員間の親睦事業

制作: 杉並産業協会
クリエイティブ・ディレクター/アート・ディレクター: 岸部浩三
ライター: 大西洋平
エディター: 三坂輝
カメラマン: 豊田佳弘(表紙・p1~6)
イラストレーター: 柿崎えま



● Chatoan
「煎茶と白玉ぜんざい」



● ベトナム食堂 cafe シクロ
「鶏チョー」

すぎなみ産 vol.4 発刊にあたって

杉並の仕事は強い!



「すぎなみ産」は、
いま、杉並区にある仕事と出会う冊子です。
2020年は新型コロナウイルスによって
仕事や生活に変化がうながされました。
そして、そんな中にも工夫を凝らし、力を尽くす
多くの産業が杉並区にはありました。
杉並区に、いま、産み出されている仕事。
杉並の仕事の強さと出会ってください。



● 地魚 食彩 バたなぎ
「大将のお任せお造り五点盛」



● まめなとらふ店
「いなりずし」



● 清水屋
「揚げまんじゅう」



● 小蔵点心
「燻汁ボーク(白)と
旬野菜vegan(緑)」